

地方創生に向けた活力ある 町づくりへの決意と実行を

町民の皆様、あけましておめでとうございます。

皆様には明るい希望に満ちあふれた新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げますとともに、日ごろからの町政全般に対する温かいご理解と絶大なるご協力に厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、ソチ五輪での羽生結弦選手ら日本選手団の活躍やノーベル物理学賞での3人同時受賞など、世界の中の日本の素晴らしさについて再認識していただいた年と言えます。

本町の明るい話題としましては、甲佐中学校が県代表としてロボットコンテスト全国大会に初出場し、見事に準優勝を飾って本町の名を全国に轟かせてくれました。今年も県代表として出場が決定しており、さらなる活躍が期待されます。

ところで、ご承知のとおり、昨年12月に衆議院議員総選挙が行われ、その結果、与党の圧勝によって国政の舵取りがなされることとなりました。

今日わが国では、選挙の争点ともなった経済政策「アベノミクス」でのデフレ

脱却や消費税増税問題、女性の社会進出、TPP、エネルギー政策、地方創生、安全保障、震災からの復興、行政改革など、数多くの政策課題が山積しており、解決に向けた諸施策に大きな期待が寄せられています。

中でも「日本創生会議」増田レポートによって報告された「人口減少社会」の問題提起は、地方を震撼させる懸案事項であり、2040年には学校や社会保障や公共交通がもはや成り立たないという「消滅可能性都市」に本町も含まれており、今後、地方創生に向けた取り組みは喫緊の課題と考えます。

そういった中、今年は町政運営2期目の最終年を迎えるわけでありますが、町民の皆様が「甲佐町に住んでよかった」と誇りと愛着を持って心から口にしていただけるよう、なお一層、本町の個性を活かしたまちづくりに努めてまいります。

また、平成27年においても行財政改革を強く推し進めて財政基盤をさらに強化しつつ、職員一体となって行政に課されたその役割を再認識しながら、「甲佐町第6次総合計画」を基盤に据えて引き続き



甲佐町長 奥名 克美

行政サービスの充実に努めてまいります。

そして、それらの改革や取り組みによって、①活力に溢れるまちづくり、②安心・安全なまちづくり、③健康と人を育むまちづくり、④協働で支えるまちづくりの4つの柱を基本とした33項目の政策目標の達成に向けて、今年も邁進してまいります。

特に、若者を中心とした「定住促進」を進めるための「子育て支援」のさらなる拡充や、東日本大震災に学んだ「災害に強いまちづくり」の推進について取り組んでまいります。また、「清流緑川」を抱える本町としては、環境保全にも力を注がねばなりません。

「地方創生」が叫ばれ自治体の地域間競争が激化する中ではありますが、新たな年を迎えるにあたりこれからも初心を忘れることなく気を引き締めて、町民の皆様から寄せられた大きな期待に応えるためにも町職員と一丸となり、共に汗を流して、今後も強い信念とあふれる情熱で「甲佐町再生・セカンドステージ」を継続してまいります。

終わりに、町民の皆様、また議会の皆様には、本年も変わらぬご指導とご支援の程をよろしくお願いを申し上げますとともに、町民の皆様にとりまして輝かしい良き1年となることを祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

町民の皆様、新年明けましておめでとうございます。

平成27年の年頭にあたり、甲佐町議会を代表し、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

皆様方には、新たな期待と希望をもって、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、町議会に対しまして温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年末、国においては、衆議院議員総選挙が行われ、再び自民党・公明党連立政権が支持され、アベノミクス効果により、地方再生が期待されるところであります。

本町を見てみますと、基幹産業である農業は長引く景気低迷、後継者問題によって活力不足は極めて厳しい状況です。

新年のご挨拶

甲佐町議会議長

本田 新



また、商店街の疲弊など、商工業も危機的状况にあると思っております。

農業を中心とした産業の振興や緑川を活かした環境政策、子育て世代に優しい政策、教育政策の充実による甲佐の魅力を活かした定住政策などの取り組みに期待をしております。

町議会としましては、町執行部とともに「活力あふれる町づくり」に向け、全力で取り組みます。

本年2月には、任期満了に伴う町議会議員選挙が予定されており、町民の皆様への負託を受けた新しい議員による甲佐町議会が形成されますが、今後とも、ご指導とご支援をよろしくお願いいたします。

町民の皆様にとりまして、実り多き年であり、また、ご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

人は家庭で育ち 学校で学び 地域で伸びる

甲佐町教育長

赤星 眞照

新年明けましておめでとうございます。学校教育をはじめ社会教育において、地域の方々のご理解、ご協力、ご支援をいただいておりますことに、心から厚くお礼申し上げます。

教育においては、昨今の学習意欲の低下、体力・運動能力の低下、ふるさとを愛する態度の未成熟、職業観・勤労感の乏しさなど多くの課題があります。

そんな中で、昨年12月に行われた創造アイデアロボットコンテスト九州大会において甲佐中学校が応用部門で優勝し、昨年度に引き続き全国大会に出場しています。子どもたちがスポーツ大会や文化関係の大会で活躍している状況もあります。



この21世紀を担う甲佐っ子が「花と緑と鮎の町」と表現される甲佐の恵まれた自然環境、そして豊かな人材を生かし、心身ともに健やかな子どもに育つよう甲佐の教育を進めたいと考えています。

そのためには学校、家庭、地域社会がその役割を明確にし、それぞれが協力して豊かな社会体験や自然体験などのさまざまな活動の機会を子どもたちに提供し、自ら学び自ら考える力、すなわち「生きる力」を、はぐくむ教育活動を展開すべきであると考えています。

そこで「人は家庭で育ち、学校で学び、地域で伸びる」のモットーに地域の教育機関、社会教育団体、生涯スポーツ団体、商工会、郷土史家、園芸農家、お年寄りなどと連携しながら子どもたちに豊かな体験活動を提供し、「生きる力」をはぐくむ活動を進めていきます。

今後とも、心豊かに健やかに子どもたちが成長できるよう町部局と一体となつて甲佐の教育を推進して参ります。